

令和4年度 名古屋市立工芸高等学校 学校評価について

各分掌重点目標・達成状況・課題など

総務部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
各専門委員会等の位置づけを確認し、業務内容の精選や見直しを行うことで学校全体の合理的な運営体制を整える。	専門委員会等の目的・内容・構成等を確認し、業務の精選や移管等を積極的に提案する。委員会の開催に際して日程等の調整を行い、より円滑な学校運営ができるようにする。	A	各委員会等の様々な業務の精選や移管等を部会で検討し、運営委員会に提案することができた。各委員会等の会議開催を Teams にてスケジュール管理し、日程調整等を行うことで、円滑に業務運営ができるようにした。	専門委員会だけでなく、分掌・教科・学科を横断した業務内容の精選や見直しを行い、ICT を積極的に活用する等、学校全体で合理的な運営体制を整える。
GIGA スクール構想に対応した教育環境を整えるため、教職員の積極的な ICT 機器利活用の促進や、校内インフラの充実を図る。	教科学科、各分掌において、ICT 環境を充実させ、学校業務全体のデジタル化を一層推進する。教職員・生徒に対して ICT 機器の利活用について積極的な情報発信を行い、様々な場面での利活用を促す。	A	全校生徒へのタブレット PC に配付に伴う一連の業務を滞りなく進めることができ、授業での活用が可能となった。欠席連絡のオンラインフォーム運用も試行し、次年度の全面実施に向け、道筋をつくることができた。	校内で、まだネットワークが利用できない教室等があるため、今後もアクセスポイントの増設等、インフラを整えていく。今後も ICT 関係の業務を安定させて運用していくために、運営体制等のシステムを構築していく必要がある。

教務部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
新学習指導要領に基づいた観点別評価について、円滑な運用・協議・研究を進める。	観点別評価について各学科・教科から随時、情報を求める。観点別導入による成績評価初年度のため、評価に時間的余裕がもてるように設定する。	A	教科会での状況を主に教務部内で積極的に共有した。今年度より時間的余裕をもって評価を付けることができるように設定した。	「主体的に学習に取り組む態度」を中心に、今後も継続して情報交換を行い、指導と評価の一体化に努めていく必要がある。
校務支援システムの運用・研究を進める。	複数人を係として校務支援システムについて研究し、成績処理や要録への円滑な運用を目指す。昨年度の経験を踏まえ、マニュアル作成に取り組む。	A	成績処理に関するマニュアルを1年の流れに沿って完成させることができた。	指導要録に関しては対応していない項目もあり、継続して業者とのやり取りが必要である。各証明書への対応も今後は目指していきたい。

生徒指導部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
基本的な生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻時の声かけによる様子の確認。 担任、学年会と情報共有をした上で、面談やゆとり登校を実施。 関係各所との情報共有。 	B	担任との情報交換や、面談から、生徒の状況を把握できるケースもあり、その結果、基本的な生活習慣の定着に向けた関わりを持つことができた。	遅刻に対して改善の意思が低い生徒もあり、面談を複数回行う生徒もいる。そのような生徒には様々なところに協力を仰ぎ、多方面からの指導を行うことができるよう働きかける。
生徒が安心、安全に過ごすことができるよう、担任・学年会・学科との連携、情報共有を図り、問題行動の未然防止に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 各担当中心に、担任や学年会と定期的に情報の確認を行う。 講話や掲示物等で注意喚起を行う。 	A	学年会の情報を生徒指導部内でも共有することで、指導に生かすことができた。また、いじめ等対策委員会でも共有を行ったことで、学校全体での情報共有を行う体制を築くことができた。 1年生対象に交通安全講話を実施し、交通ルールや痴漢対策などを確認することができた。	学校全体で情報の共有を行える体制を継続していく。

生徒会部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生徒同士が学校生活の課題解決に向けて、計画立案や役割分担をし、協力して自主的、実践的に取り組むことへのサポートを委員会や部活動を通して継続する	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意見を受け付ける「工芸生の声」だけでなく、生徒が声をあげる機会を設け、生徒が積極的に生徒会活動に参加できる環境を作る。 各委員会で年間の計画を立案し取り組むだけでなく、次年度へ向けた振り返りができる時間を確保する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「七夕企画」「お正月企画」といった形で生徒会執行部がイベントを企画し、学校に対する改善点を受けつけることができた。 通年になったことで各委員会振り返りを行う時間を設けることができ次年度に向けた反省ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 要望を言うだけでなく、生徒が主体的に生徒会活動を通して問題解決できる仕組みづくりが必要である。 各委員会で挙げた反省点を次年度のメンバーが引継げるような体制づくりが必要である。
部活動の適正なサポートと、広報活動をおこない、学校全体で支援する環境整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動担当者を一本化することで、部代表者会や部調査など部活動に関わる業務が円滑に進むようにする。 部代表者を通して部全体への意識づけを行い、部内から適正な部活動運営を行う。 新たな部予算配当を実現し、部活動の要望を踏まえた部予算を計上する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 部活動担当者を一本化し、生徒には担当者がわかやすい形を示すことができた。部顧問にはマイクロソフト teams を利用するなど円滑な部活動支援をおこなうことができた。 部代表者会において部全体への連絡を徹底させ、それを受けて各部での運営を行うことができた。 部活動の要望を踏まえた部予算を計上することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の実績などを校内外に広報し、学校全体で部活動を応援できるような環境づくりを行っていく。 老朽化が進む部活動備品の整備を検討する。 新しい部予算の妥当性を継続審議する必要がある。

進路指導部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
本校におけるキャリア教育の確立と、その効果的な手立てを研究し実践する。	3年間を通した進路指導計画方針を作成し、流れや目的を確認しながら、各行事の見直しを図る。	B	キャリア教育に関わる進路行事が、3年間を通してどのように積み重なっていかを整理することができた。	生徒が進路選択に向けてさらに意識が高まるような行事を検討し、実行する。
生徒が自らの能力・適性や個々の成果に合った進路選択ができるようにサポートする。	生徒が自身の適性や希望などを見つめ直す機会を提供し、個々の進路選択に合わせたサポートをする。	A	生徒が探究活動や職業適性検査の結果などを踏まえ、自らの進む道を選択できるように、担任や学科の協力を得てサポートすることができた。	必要に応じて企業や大学・専門学校などの外部とも連携を図りながら、進路選択に向けて細やかなサポートをしていく。また、SPI対策・公務員対策を検討する。

保健部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生徒自ら感染症予防を行うよう促し、集団の中の感染症予防を意識して健やかな学校生活を送ることができるよう指導・助言する。	保健委員によるほけんだよりの作成、加湿器の運用など委員会活動を通し、健やかな学校生活を送る方法の意識づけ。健康チェック、換気等、日常的に感染症予防を呼びかけ。	A	ほけんだよりの作成等、生徒主体で健康に関する活動を行うことができた。また、換気の必要性を伝えることで、自ら換気等の感染症対策を実施する生徒が増えた。	継続的に、生徒自ら感染症予防を中心に心身の健康に留意し、自己で健康管理を実施していくことができるよう指導・助言する。
見守りが必要な生徒の早期発見と、生徒のサポート体制を充実させることができるよう、SCや担任、学科や教科担当等との連携を図る。	教育相談係と養護教諭を中心に、教員同士が密に連携を取り、見守りが必要な生徒の早期発見を図る。	A	SC、養護教諭、教育相談係、担任等、職員が配慮が必要な生徒の情報共有を密に行い、学校生活の配慮に結び付けることができた。また、「こころのSOS」の実施、いのちについて考えよう強化月間、SCによる10minutes プレゼンツ等を実施し、教育相談に役立てることができた。	今年度同様、職員で配慮が必要となる生徒の情報共有を密に行い、見守りが必要な生徒の早期発見に努め、学校生活の配慮を検討する。 また、継続的に講話等を実施し、教育相談につながる活動を充実させる。

図書部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生徒・教員に向けた図書館の利用促進	生涯を通じて読書に親しむ習慣を身に付けられるよう、生徒・教員に向けた図書館利用の促進に努める。	B	ホール前に図書掲示板を新設し、読書週間（スタンプラリー）を新たに企画するなど、生徒に向けた図書館利用の促進を積極的に行った。	生徒の貸出数は増えたが、教員へのアピールが不十分だった。今後の課題である。
図書館の設備充実	授業や課外活動で利用できるよう、図書の選定及び図書館環境の整備に努める。	A	蔵書管理システムを一新したことで、蔵書点検が手軽にかつ着実に行えるようになるなど、環境整備の点で大きな前進があった。	システムを運用するためのコンピュータ・プリンタが老朽化しているため、更新が望まれる。

広報企画部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
今後の工芸高校としての広報活動の在り方を検討する。	広報としての原案の作成。運営委員会への提案。	A	2学期当初には原案を作成し提案した。また運営委員会で今後の方針を決定することができた。	広報企画部の方向性が決まったので、今後具体的にどのような事を実施していくかを検討する必要がある。
関係部署との連携を図り、安定した受検生の確保のための情報収集・分析を行い、活用方法を検討する。	・中学校訪問の企画・立案・まとめ ・進路説明会、上級学校説明会の対応 ・入学案内、学校パンフレットなどの製作	A	・多くの中学校での進路説明会を実施することができた。 ・学校パンフレットの製作を早い段階より取り組むことができた。	広報活動の対象を整理し、対象にあった発信方法を検討する。

工務部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
特色ある工業教育（デザイン・ものづくり）を実現するための施策を展開していく。	スクールアイデンティ「ONE BY DESIGN」に基づき、工芸高校らしさを体現できる魅力的なカリキュラムの在り方を研究、検討していく。	B	新しいカリキュラムにおいてのタブレットの活用などについて情報交換を行なった	カリキュラム移行期間の中で、情報交換を活発化させ、タブレットやPC室の活用も含めて検討をする必要がある。
産学官連携事業（KOGEI DESIGN OFFICE）の活動を展開していく。	KOGEI DESIGN OFFICEの活動がより活発になるように検討を重ね、環境整備を進めていく。	A	工務部に KDO に取り組む人員を確保できたため、今年度、工務部で取り組んだプロジェクトはスムーズに進めることができた。	引き続きPR資料を使った活動の認知を広げていく。 また、今年度の事案を踏まえ、引き続き案件受け入れ基準の策定を進め、KDO 活動の持続可能な形を考える。

